



「大賞なんて信じられなくて。通知のはがきをこすったら違う名前が出てくるんじゃないかと、しばらくは落ち着きませんでした」。いたずらっぽい笑顔が愛らしい。

受賞作「紫陽花が咲く頃」では、紫や青の花を背景に、白いドレスの女性を描いた。

「雨を受けてきれいに咲く花に、しっとりした女性の美しさを連想しました」。人物と花は、好きなモチーフ。実家の庭で、よくスケッチする。

「制作に迷ったときは、スケッチが助けてくれるんです。形や色だけでなく、その



と時の感じた気持ち、天気や気温、おいし。記憶がよ

第70回記念県美展で
大賞を受賞した

石川 美由紀さん (24)

みがえってきます」。五感を大切に描いている。「絵画には絵の具以外にも『見えない何か』がのっけていて、それが人の心を打つんだと思います」

男兄弟の真ん中で育ち、「きれいなもの」へ憧れていたという。高校生のとき、現在の指導教官、中村賢次・崇城大教授の作品を見た。「日本画と言えば浮世絵か掛け軸くらいしか知らなかったけど、『こんな表現ができるんだ』と新鮮でした。岩絵の具の画面は粒子がきらきらしている。その質感にも引かれます」

描いているのは理想の女性像だ。「絵の女性は色気があるのに、と言われます」と苦笑する。実生活は、絵が中心。旅行で原宿に行っても、画材屋めぐりが楽しくて「服を見ないなんて、と友人にあきれました」。

八代市で両親と弟、「きれいな花を咲かせてくれる」祖母と5人暮らし。(小野由起子)

【19面参照】